

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	①-12	実施計画番号	77	事業開始年度	平成20年度
事務事業名	医療費適正化対策			事業終了年度	
担当課名	国民健康保険課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	高齢者の医療の確保に関する法律	関連事務事業			
背景や経緯等	国民皆保険を堅持し続けていくためには、今後医療費が過度に増大しないようにしていくとともに、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を図ることが必要とされ、平成20年に全国医療費適正化計画が策定された。その取組のひとつとして、患者の増加率を減らす・医療費の抑制のために、重複頻回受診者への訪問指導を実施している。				
事務事業の目的	適正受診へ繋げることで、医療費の過度な伸びを抑制する。				
実施状況	医療機関から審査支払機関を経由し送付されるレセプトを確認し、重複・頻回受診者に対して、保健師の訪問による受診状況確認と適正受診に関する指導及び健康指導を行っている。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	84	84	84
	人件費(千円)	3,024	3,024	3,024
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		0	0	0

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		重複・頻回受診者への保健師による訪問指導			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	94	56	60
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		重複・頻回受診者への保健師による訪問指導			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	112	66	60
				94	56	60
				84%	85%	100%
	成果指標名②		効果額(医療費削減額)			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			円	2,741,560	1,600,000	

# 十和田市事務事業評価シート

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<b>存在意義の見直しの余地</b> 0 / 4 ・国民健康保険制度を維持するために、医療費の過度な増大を抑制することが必要であり、重複・頻回受診者に対して適性受診に関する訪問指導を行うことは有効である。	
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<b>成果向上の余地</b> 0 / 6 ・適正受診につなげていくためには、重複・頻回受診者それぞれの実態を把握し指導していくことが必要であり、保健師の訪問指導は有効である。	
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<b>コスト削減の余地</b> 0 / 6 ・民間等外部に委託することは、病気などの個人情報内容に関わるため難しい。	
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<b>受益者負担適正化の余地</b> 0 / 4 ・被保険者の誰もが重複・頻回受診者となる可能性があり、また抑制された医療費は国保会計の改善につながるから偏りはない。	
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>現在の適性</b>					<b>20 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>0 / 20</b>

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

国保事業の健全な運営のためには適切な受診が必要であり、特に重複・頻回受診者へは直接説明・指導により理解していただく必要がある。

### 今後の具体的な取組方策と狙う効果

適切な受診につなげていくため、保健師による訪問指導を継続し、医療費の過度な伸びを抑制していく。